

サイド・ラジー

医学系研究科 博士課程後期1年

平和都市広島の人々へ

私は1960年イランのシラズで生まれました。1988年シラズ大学理学部化学科修士課程を卒業しました。4年程ケルマン大学医学部で助手を勤め1992年4月に国費留学生として広島大学にきました。

PROFILE

今日は!

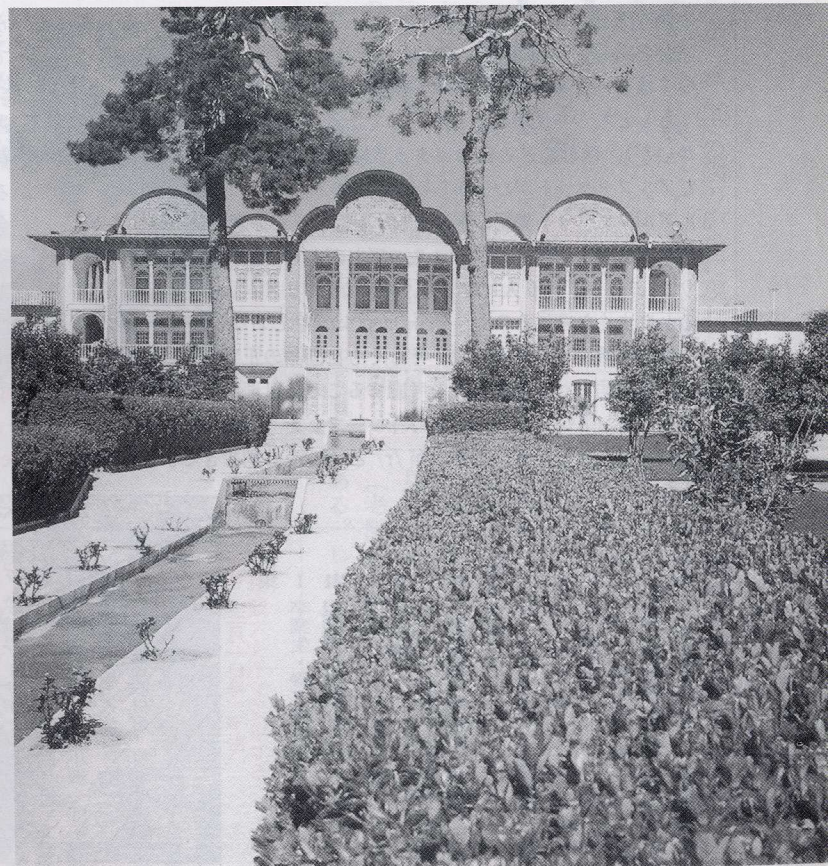
سلام عليكم

日本のイメージ

日本へ来る前に日本語と日本文化を知りませんでした。日本の国を、トヨタと一休さんと三船敏郎と富士山というイメージとして知っていただけでした。日本に来てからまず五ヶ月、広島大学で日本語を勉強しましたが、その間、日本語がとてもむずかしいと思いましたが、でも、ガツカリはしませんでした。日本語の力を高め日本文化をよりいっそう知るために、日本人々と親交を深めていくことを始めました。私は、日本の着物がとても高価であることに気づきましたが、着物を着ていなくても、日本の文化に深く親しむことはできると信じます。

私の国の紹介

まず、私達が日常でもよく使う、SALAM ALAIKOMという言葉を紹介します。この言葉の意味は、「あなたのうえに平和がありますように」ということです。私は、平和都市広島全ての人々に、この言葉を送ります。次に、私の国の習慣を少し紹介しします。イランでは、お正月をNOWROOZと言います。NOWROOZの意味は、新しい日です。それは春の始まりです。



私の町(シラズ)にある博物館

入れたおさらにおいて、芽が出るように育て、あとで正月の十三日に、この麦を町の外にもって行ってまきます。なぜなら、去年の色々な悪いことを、この麦の芽がすいとってくれると信じているからです。

終わりに

最後に、薬学科の皆さんに、心より感謝いたします。皆さんの優しい気持ちに囲まれて、私は、故郷にいるのと同じ気持ちをもって、日本で生活することができまます。

留学は文化の国際交流と国際協力の観点から、最も基礎的なものといえ、異文化の接触は自国文化の理解、あるいは当事者の国際観にも決定的な影響を与えらると思われ。従って、外国に留学する個人は勉強だけでなく、その国の歴史、文化、経済、習慣などに接し、その国の人々と付き合いながらお互いに理解しあうことも重要であろう。

難しい日本への馴化

しかし、このような考え方をもち、日本の留学生を送りたいと思ってもうまいかない場合が多いようである。その理由は、日本留学生への言葉の問題や習慣の違いなどを除外しても、個人それぞれの母国の思考方式によるものもあり、留学生を受け入れる日本人の思考方式によるものもあるだろう。日本に来て留学生生活をする人々は、日本の生活や習慣などに行ける限り従うべきであるが、最初のうちは何十年間の習慣や行動パターンが短期間で変わるものではなく、何十年かかっても変えないところもあると考えられる。

そこで、何年間の日本での留学生活の中で留学生たちは、母国の習慣や考え方に基づいて日本人と付き合い合ったり批判し合ったりするかも知れない。

集団性をもつ日本人

留学生活の中で見た日本人とは

Kang Ju Chan 姜 柱 賛 生物圏科学研究科博士課程後期3年



私は日本での生活を三年間過ごしてしまつた。最初の頃は、言葉の問題などを含んでいろいろな面で困つた時もあったが、現在では日本の生活にかなり慣れたような気がする。日本の様々などころを見物し、様々な人々と出逢い、多くの思い出を作つたことは、日本に来て良かったと思つたことである。

私は三年間の留学生活の中でスピーチ、通訳などのいろいろな機会があったため、少しは日本という国を理解できるようになった気がする。その中で私が最も感じたことは、日本人は集団性を持つということである。

いつか韓国の文化放送局の記者団がアジア大会の準備状況取材するために来日した時、通訳を頼まれて広島市長や組織委員長とのインタビューやその他の関係者を一週間にわたって訪問したことがある。その時、私は日本人の集団性の素晴らしさをも一度とることができた。

日本人の人間関係は、最も日本的な特徴を示しているのではないかと思う。個人がいろいろな集団に属して、上下の関係が整然としている。集団内ではお互いに助け合つて協調性が強い。このような集団性の力がアジア大会という大きなイベントを広島で開催できるようになった原因かも知れない。

つよい「外国人」意識

しかし、集団外に対してはわりと閉鎖的であると思う。留学生としては、この集団性になじまないと、やはり特別な地位に置かれてしまい、そして、その中に溶け込むことが非常に難しい。

追加的に、三年間の経験から思うことだが、日本人の礼儀正しき、親切さ、迷惑をかけることなども日本的なものではないかなと感じられた。しかし、人との間で気をつかひすぎると、その間はいつも距離を感じてしまう場合が多い。私の意見からすると、人間関係、特に友達との間ではお互い少しづらいは自己主張、不親切、迷惑などが必要であり、その中で互いに理解し合うことから真の友情が生まれると思う。

私の三年間の日本の生活の中で良い意味か、悪い意味かは別にして、時々感じたことは日本人との間で距離感があるということである。友達になりたいたと思つてもなかなかその関係は難しい。

プロフィール

私は韓国の済州道で生まれ、釜山水産大学で修士課程を終了し、一年間の助手生活をしたのち、一九九〇年十月に広島大学生物生産学部研究生として来日した。現在、博士課程後期三年に在学中、「水生生物に及ぼす水質因子の変化ならびに汚染物質の影響」に関して研究を続けている。



広島ガラスの里で妻とともに